

山田先生宛のチャット質問(回答ができなかったもの)

① 目的・場面・状況に応じて「文字の名称を発音している」とは、どのような目的・場面・状況でしょうか？

(山田回答)

小学校学習指導要領解説「外国語」では、「読むこと」の言語活動(イ)に次の例示をしています。御参考になれば幸いです。

自己紹介の場面で、自分の名前を“My name is Haruna.”と紹介した後、自分の名前の綴りを相手にはっきり伝えるために、“H, a, r, u, n, a”と文字の名称を発音する活動。

② I like my town. の例でいうと、目的は「友だちの地域に対する考えを知る」ことだと思えますが、場面・状況はどう設定されているのでしょうか？場面と状況の違いも含めて教えて頂けると幸いです。

(山田回答)

中学校学習指導要領解説「外国語」では、目的、場面、状況について次のように解説しています。

「コミュニケーションを行う目的や場面、状況など」とは、コミュニケーションを行うことによる達成しようとする目的や、話し手や聞き手を含む発話の場面、コミュニケーションを行う相手との関係性やコミュニケーションを行う際の環境のことを指す。

上記内容と照らして考えると、「場面」は、オリジナルガイドブックを読んでいる場面(明示されていないのではっきりしませんが、例えば「教室」や「家庭」などが有り得るでしょうか)、「状況」は「学級の友達」などとなるのかもしれませんが。

③ 学習指導要領にある「思判表」で見取るもの(文字の名称・語句や表現)は理解しました。そこで疑問に思ったことなのですが、外国語の目標にある「外国語における見方や考え方を働かせ」の部分がどのように「思判表」に関わってくるのか、山田先生のお考えをお聞かせいただければ幸いです。

(山田回答)

小学校学習指導要領解説「外国語」では、「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」(以下「見方・考え方」という。)について、次のように解説しています。

見方・考え方とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、「外国語で表現し伝え合うために、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」であると考えられる。

(下線は筆者)

上記内容を踏まえると、本日お話しした I like my town. (代替案) であれば、町づくりプロジェクトチームのメンバーを見付ける (決める) ために友達を書いたオリジナルガイドブックを読む際、どこに着目しようかと考えながら読んでいるときに、見方・考え方が働いていると言えるのではないのでしょうか。このような、見方・考え方を働かせる必要がある言語活動に継続的に取り組ませることが大切です。換言すれば、「この活動に取り組ませることは、見方・考え方を働かせることになるだろうか?」という視点で、子供たちに取り組ませる活動を見つめ直す必要があると考えます。

④ 中学校教員です。これから試験問題を作っていくうえで、「知識・技能」「思考・判断・表現」それぞれを測るための問にあまり具体的なイメージが持ていません。例えばリスニング問題で、「会話の状況を表している絵はどれか」という設問は、どちらの観点でしょうか?

(山田回答)

話される英語を聞き、大まかな内容を捉えないと適切な絵が選べない問題であれば概要を問う問題と考えられます。一方、話し手が最も伝えたいことを捉えることができれば適切な絵を選ぶことができる問題であれば、要点を問う問題と考えられます。本日の講話の中で紹介しましたが、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」(中学校外国語)の p.59 に、「問題の種類」を例示しています。また、pp.60-62 (事例2) に「読むこと」の問題例、pp.67-69 に「聞くこと」の問題例をそれぞれ示していますので参考にしてください。

⑤ 改善案の中の「読んで思ったことをかこう」という思判表の問いは、評価する際、どのような回答を A とし、どのような回答を B と考えますか?

(山田回答)

例えば、「〇〇さんとは同じプロジェクトチームのメンバーになりたいと思いました。」などとしか書かれていない(理由が書かれていない)場合は「b」、理由も書かれていれば「a」とすることも考えられるかもしれません。ただし、このような基準を設ける場合は、「思ったことを書こう」と言われたときには理由まで書く必要があるということを日頃の授業で指導しておかなければなりません。「指導したことを評価する」のは評価の大原則ですから。そう考えると、自身の学校ではどこまで指導しているのか(何を目標に指導しているのか)によって「a」「b」「c」の基準は決まるということになります。評価規準もそうですが評価基準についても学校が設定する必要があるのはこのためです。

※最後に: 本日、I like my town の代替案を示しましたが、参考資料で示しているそのままの方法で指導や評価をしていただいてももちろん結構です。ただ、本事例に限らず、そして小学校外国語に限らず、参考資料で示しているのはあくまでも例であり、それをマイナーチェンジしたり、全く別の方法で指導と評価を行ったりすることは十分考えられます。ぜひ、参考資料も参考にさせていただきながら、各学校、各先生の創意工夫ある実践を行っていただければと思います。